

「拝所」の呼称について
— 若狭地方の拝所の建築的研究 —

多米 淑人

On the Compellation of “*Haisyo*”
— A Study on “*Haisyo*” of Shinto Shrine in Wakasa-District —

Yoshihito TAME

In this paper, compellation of “*Haisyo*” of Shinto shrine is considered. As a result, this paper found the following. The “*Haisyo*” is hardly confirmed any place other than Wakasa-district. The “*Haisyo*” was confirmed at the middle of Edo period, but that is generally confirmed at after 1893 in Wakasa-district. *Compellation of “Haisyo”* is one of the characteristics of Shinto shrine in Wakasa-district.

Keywords: “*Haisyo*”, shinto shrine, wakasa-district, “*Munafuda*”

1. はじめに

これまでに、福井県若狭地方の神社にみられる拝所の建築形式やその特徴、分布状況などについては報告している^{註1)}。そして、整った建築形式をもつ独立型拝所は57例みられ、これらの標準的な建築形式は、写真1のように、規模が方1間、屋根が唐破風造・銅板葺、妻入り、外廻りが四方吹き放しであること、また、拝所は拝殿とともに神を拝むための建物であるが、社殿建築として拝所の方が拝殿よりも上位に格付けされる建築であることなどを指摘している。

この拝所という呼称は、若狭地方で一般的に用いられているもので、本研究でも使用するが、向拝所や拝殿などと呼んでいる場合もある。

本稿は、文書や棟札、修理工事報告書などの史料にみられる「拝所」という記述を抽出し、拝所の呼称が使われている時期、および拝所がどのような目的でつくられたのかなどを考察する。



写真1 標準的な独立型拝所の例
(日吉神社・美浜町早瀬)

* 建築学科

2. 「拝所」の全国的な事例

昭和52年から平成2年にかけて実施された、都道府県別の近世社寺調査報告書や国重要文化財指定の神社に関する修理工事報告書などを精査した結果、「拝所」の記述を確認できたのは、京都府の石清水八幡宮の修理工事報告書内の1例だけである。『重要文化財石清水八幡宮社殿修理工事報告書』¹⁾には「一、官幣大社石清水八幡宮拝所 一、昭和九年九月關西風害國費修舊修理 一、起工 昭和十一年七月一日 一、竣工 昭和十五年九月十五日 一、設計施工 内務省神社局」²⁾とあり、当社において、昭和11年に「拝所」という呼称が使われていたことがわかる。当社の「拝所」は寛永以後に建てられたと推定されている³⁾が、創建当時から「拝所」と呼ばれていたかどうかは明らかでない⁴⁾。

この石清水八幡宮の拝所(写真2⁵⁾)と若狭地方の拝所を比べると、唐破風屋根の妻入り、方1間の規模で、四方を吹き放しにすることは、若狭地方の拝所と類似する。しかし、たっている場所には違いがみられる。若狭地方の拝所は、前述の写真1のように本殿直前にたっているのに対して、石清水八幡宮の拝所は本殿前方の楼門・廻廊に付いている。

「拝所」の記述は1例だけであるが、それに類するものとして「礼拝所」という記述も1例確認できる。それは、『京都御役所向大概覚書 下巻』²⁾の「六」山城國寺社方間數御修復所之事」の中にある「一、稻荷社堂舎…(前略)…禮拝所 表ま三間三尺四寸 奥行貳間…(中略)…右元祿七戌年…(後略)」⁶⁾で、この記録から稻荷社において元祿7年(1694)に間口3間3尺4寸、奥行2間の規模の「礼(禮)拝所」があったことがわかる。

この稻荷社は、現在の伏見稻荷大社(京都府)のことで、当社には写真3⁷⁾のように礼拝所が現存している。『重要文化財伏見稻荷大社本殿修理工事報告書』³⁾によれば、この礼拝所は元祿7年(1694)に本殿前に付加されたものである。しかし、昭和35年に行なわれた本殿の修復工事の際に、本殿建立時の明応年間(1492～1501)にはこの礼拝所がなかったとの理由で、本殿前から新築された拝殿の前へ移築された⁸⁾。

この稻荷大社の礼拝所と若狭地方の拝所を比較すると、規模は当社の礼拝所の方が大きいが、唐破風屋根の妻入りで、四方を吹き放しであることは、若狭地方の拝所と類似し、さらに、当初は本殿前につくられていたことも共通している。



写真2 石清水八幡宮の拝所



写真3 伏見稻荷大社の礼拝所

3. 若狭地方の「拝所」の呼称

後掲の表1は、若狭地方の神社に関する文書や棟札、記録などにみられる「拝所」の記述を時代順にまとめたものである。「拝所」の記述は、若狭以外の地域では全国的にみてもほとんど確認できなかったが、若狭地方においては、隣接する敦賀市の常宮神社の1例を含め計61件確認できる。

3-1. 江戸期の呼称と現存例

最も古いのは、『酒井家編年史料稿本』⁴⁾所収の「(宝永元年)四月 是月忠圀小濱郊外竹原村天王社ニ拝所ヲ建立ス」^{註9)}で、この記録から宝永元年(1704)4月に小浜郊外の竹原村の天王社において拝所が建立されたことがわかる。次に古いのは、『若狭の工匠』⁵⁾所収の寛政7年(1795)の釣姫神社の棟札^{註10)}の例である。これには、「奉再造釣姫宮拝所御武運榮暉國家豊饒氏子繁榮祈攸」とあることから、小浜市西津の釣姫神社で寛政7年に拝所が再建されたことがわかる。三番目に古い例は、『宇波西神社文書 造営 2』⁶⁾の「文化三丙寅年 日向稻荷拝所地祭之神事」^{註11)}の記録で、美浜町日向の稻荷神社において、文化3年(1806)に行なわれた、拝所の地祭に関わるものである。この他、『野木村誌』⁷⁾に掲載されている梶山神社に関する古文書写しに「(前略)…拝所等は得不仕…(中略)…拝殿並修復…(中略)…嘉永二年 丙七月 日…(後略)」^{註12)}とあり、梶山神社では嘉永2年(1849)に「拝所」の呼称が使われていたことがわかる。

江戸時代の「拝所」の記録が確定する例は、以上の4例であり、すでに宝永元年(1704)に「拝所」という呼称が使われ、その後、幕末の嘉永2年(1849)まで断続的にみられる。

次に、「拝所」の記述が確認できるこれら4例の神社の拝所の現況に関してみる。宝永元年の例である天王社とは、現在の廣嶺神社(小浜市千種)のことであるが、当社は本殿とその前にある建物が覆屋に囲われていて、拝所の存在が確認できない。寛政7年の例である釣姫神社(小浜市西津)には、拝所がない。4番目の嘉永2年の例である梶山神社(若狭町杉山)には、拝所はあるものの、現在の拝所は建築形式から戦前頃と推定でき、古文書にみられる拝所とは合致しない。つまり、江戸時代の4例中3例が、史料の「拝所」と現在の拝所は異なる状況にある。

そのような中、残りの1例である文化3年の稻荷神社(美浜町日向)は、史料の記録と現存する拝所が合致する初例である。当社には写真4のような拝所が現存している。この拝所の建築年代を示す資料はみられないが、木鼻や絵様の様式などから江戸後～末期頃のものとして推定でき、これを前掲の文化3年(1806)に地祭が行なわれた拝所とみなすことができる。したがって、これが「拝所」と呼ばれていることが確かな最古の現存事例であるといえる。

以上の他に、記述年代は不明であるが、2枚の棟札に「拝所」の記述がみられる。一つは前川神社(若狭町南前川)の棟札で、もう一つは佐支神社(美浜町久々子)の棟札である。前者には「奉造拜所壹宇 災消除 上棟祈壽行事故」とあるが、この棟札は拝所の棟木下端に打ち付けられていて、年代の記述があると思われる面の確認はできない。しかし、拝所の細部の建築形式などから拝所の成立時期は江戸後期と推定できる。後者の佐支神社の棟札は、「奉造拜所壹宇 火災消除 上棟祈禱行事故」とあるものである。この棟札は境内脇にある建物の棟木側面に打ち付けられていて、やはり年代は判明しないが、建築形式からこの建物の建築年代は、幕末～明治と推定できる。

以上の2例を含めると「拝所」と呼ばれていることを確認できる江戸時代の拝所は、若狭地方において3棟現存しているとみることができる。



写真4 「拝所」と現拝所が一致する最古の例
(稲荷神社・美浜町日向)

3-2. 明治期以降にみられる「拝所」の記述

3-2-1. 『影印本・福井県神社明細帳(嶺南編)』

『影印本・福井県神社明細帳(嶺南編)』⁸⁾(以下、『神社明細帳・嶺南編』と呼ぶ)は、福井県嶺南地方の敦賀郡・三方郡・遠敷郡・大飯郡の4郡にある622社の神社に関する報告書である。これは、明治12年に内務省の指令で作成され、その後、昭和期に至るまで、逐次内容の補加や修正が行なわれているものである。記載内容をみると、明治12年時点では、どの神社も所在地や由緒、社殿(本殿)規模などが記されているだけで、個々の建物名の記述はない。しかし、明治26年頃から神社廃合後の記述とともに、拝所や拝殿、鳥居など本殿以外の建物の名前が加筆されている。その中で、「拝所」の記述は、三方郡、遠敷郡、大飯郡の3郡^{註14)}で50例あり、そのうち37例は年代もわかる^{註15)}。初見は明治26年の遠敷郡宮川村加茂の加茂神社の項で、「拝所…(中略)…明治貳六年十二月廿五日記入漏登載許可」^{註16)}とある。これ以降では、明治40年～50年の例が28例、大正3年～15年が5例、昭和2～15年のものが4例みられる。以上のように『神社明細帳・嶺南編』には、明治26年以降「拝所」という呼称が多く確認できる。

3-2-2. 明治・大正期の史料

若狭地方には、上述の『神社明細帳・嶺南編』の他にも、明治期以降の棟札や石碑などの4史料に「拝所」の記述を確認できる。1例は明治期のもので、明治26年(1893)の岩上神社(若狭町天徳寺)の棟札に「奉建立岩上神社上仮家拝所壺宇」とある(写真5)。

2例は大正期の例で、一つは『野木村誌』所収の波古神社(若狭町堤)の由緒に関する記録の中にみられ、「(前略)…大正四年八月十六日本殿、拝所移轉及び鳥居再建を出願…(後略)」^{註13)}とあるように、大正4年(1915)の例である。もう一つは多由比神社(若狭町田井)の境内の石碑のもので、表に「拝所新築篤志芳名」、裏に「大正十三年十月吉日」と刻銘されており、大正13年(1924)に「拝所」の記述がみられる。

最後の1例は、昭和期の例で、若狭地方の東に隣接する敦賀市常宮にある常宮神社の棟札(写真6)にみられる。この棟札には、「元氣比神宮中門改築之也 奉建縣社常宮神社拜所棟札 昭和拾八年拾壹月拾八日竣工也」とあり、昭和18年に氣比神宮の中門を移築し、拝所として再建されて事例である。



左：写真5 岩上神社の明治26年の棟札
右：写真6 常宮神社の昭和18年の棟札

3-3. 「拝所」の呼称の時期

若狭地方における「拝所」の記述を年代別にみると、江戸期が4例、明治期が30例、大正期が7例、昭和期が5例である。最も早いのは、江戸中期の宝永元年(1704)で、最も多くみられるのは明治期である。明治期30例のうち29例が『神社明細帳・嶺南編』の記述で、これらはすべて明治26年以降の例である。そして、大正13年の多由比神社の石碑がみられることから、この頃はすでに「拝所」という呼称が、広く使われていたことがわかる。

以上のように、若狭地方における「拝所」の呼称は、江戸中期頃から使われているが、一般的になるのは、明治26年以降であるといえる。

4. 拝所がつくられた理由

『鏡ノ関ノ記』⁹⁾には、拝所ではないが瀧倉神社に向拝所と呼ばれる建物の「増築セントスル事由書」(写真7^{註17)})が掲載されている。

これは、昭和15年11月に福井県知事宛てのもので、「増築セントスル事由書 従来向拝所ノ設備無ク例祭ヲ始メ諸祭典ニ奉仕スル社掌以下氏子總代等ノ跪座スル場所モ無ク雨雪降下ノ際ニハ雨具ヲ携帯スルノ止ムナキニ至リ祭典ノ莊嚴ヲモ歟ク恐レアルヲ以テ多年来向拝所建築ヲ祈願シツ、及ビ居候處今回皇紀貳千六百年ノ記念事業トシテ之ヲ建築致度去ル八月三十日社寺建築規則ニ依リ建築許可申請ニ及ビ候處別紙添付之許可書寫本ノ通り十月二十八日付ヲ以テ許可相成候ニ付更ニ今回木造建築統制規則ニ依ル増築許可申請候 右増築ノ事由ニ有之候ニ付何

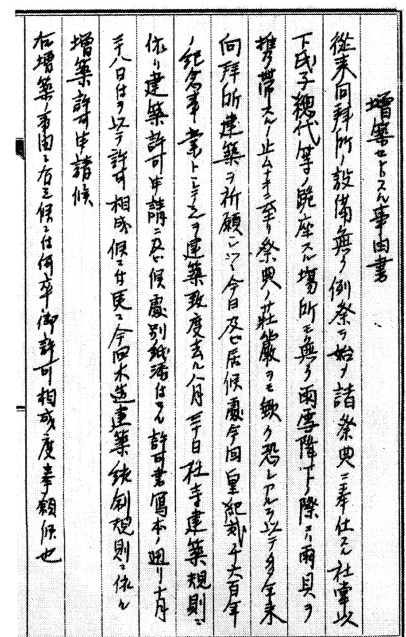


写真7
向拝所増築許可申請の事

卒御許可相成度事願候也」^{註18)}とある。つまり、皇紀2600年(昭和15年)を記念して向拝所の増築許可を申請している書類である。そして、向拝所を増築する理由として、祭礼や祭典の際に社掌や氏子総代などの場所がないこと、雨や雪が降った時に雨具を用いるため荘厳を欠く恐れがあることなどを挙げている。

この瀧倉神社には、現在も本殿前に写真8のような建物がたっている。細部形式や聞き取りから、これが昭和15年に増築を申請した向拝所であることは明らかで、当社においては、これを向拝所と呼んでいるが、この建物の建築形式は本研究で対象としている拝所と同じである。したがって、向拝所と拝所は同一建物を示しているとみることができる。以上のことから、拝所がつくられた理由として、祭礼時の神職や氏子たちの居場所の確保と雨や雪除けのためであったことがわかる。



写真8 瀧倉神社(若狭町三生野)の向拝所

表1 「拝所」の史料と年代

神社名	所在地	添書年代	記載史料
天王社(現廣嶺神社)	小浜市 竹原	宝永元年	『酒井家編年史料稿本』
釣姫神社	小浜市 西津	寛政7年	棟札
稲荷神社	美浜町 日向	文化3年	『上瀬宮御支配社遷宮并除時御神事記』
椋山神社	若狭町 椋山	嘉永2年	『野木村誌』
前川神社	若狭町 南前川	(江戸後期)	棟札
佐支神社	美浜町 久々子	(幕末～明治)	棟札
岩上神社	若狭町 天徳寺	明治26年 巳10月8祥日	棟札
加茂神社	小浜市 加茂	明治26年12月25日記入洩登載許可	『神社明細帳・嶺南編』
信主社	若狭町 三宅	明治40年6月〇日再建許可	〃
加茂神社	小浜市 下田	明治40年12月7日建設	〃
若狭彦姫神社	小浜市 泊	明治41年4月4日改築	〃
稲荷神社	美浜町 日向	明治41年5月15日名称変更許可	〃
日吉神社	若狭町 金山	明治41年5月5日新築許可	〃
曾尾神社	小浜市 栗田	明治41年6月15日訂正許可	〃
多由比神社	若狭町 田井	明治41年8月〇〇・大正7年9月16日竣工届出 ・大正13年8月19日訂正許可・11月15日竣工届出	〃
前川神社	若狭町 南前川	明治41年8月7日訂正許可	〃
神子神社(旧諏訪神社)	若狭町 神子	明治41年9月11日建設	〃
天利劔神社	若狭町 世久見	明治41年10月1日〇〇・大正3年〇月〇日竣工届出 ・大正3年7月8日訂正許可	〃
伊牟移神社(旧金銀子神社)	美浜町 郷市	明治41年10月8日建設許可	〃
小川神社(旧広嶺社)	若狭町 小川	明治41年11月30日〇築 ・大正5年〇月30日竣工	〃

佐伎治神社	高浜町	宮崎	明治41年□月31日記入許可	〃
日吉神社	若狭町	岩屋	明治42年2月19日訂正	〃
山上神社(旧天満社)	美浜町	山上	明治42年2月5日改築許可□□	〃
宇波西神社	若狭町	気山	明治42年3月21日改称	〃
織田神社	美浜町	北田	明治42年3月24日新設	〃
天満社	若狭町	藤井	明治42年3月5日建改	〃
間見神社	若狭町	成願寺	明治42年4月20日□□	〃
日枝神社	小浜市	太良庄	明治42年6月28日訂正許可	〃
岩上神社	若狭町	天徳寺	明治42年6月3日建設許可	〃
八幡神社	若狭町	田上	明治42年11月24日訂正	〃
加茂神社	若狭町	鳥浜	明治43年7月28日新築許可	〃
新鞍神社	おおい町	川上	明治43年12月21日□□記入	〃
皇王神社(旧皇后神社)	おおい町	虫鹿野	明治43年□月□日改築許可	〃
天満社	高浜町	三明	明治44年5月17日記入許可	〃
佐支神社	美浜町	久々子	明治44年8月9日改築許可 ・大正元年12月19日竣工届出	〃
天満神社	小浜市	田鳥	明治45年3月9日新築 ・明治45年4月30日竣工	〃
香山神社	高浜町	下車持	大正3年3月11日追認許可	〃
春日神社	小浜市	阿納	大正3年□月□日記入許可	〃
波古神社	若狭町	堤	大正4年	『野木村誌』
御方神社	若狭町	三方	大正8年12月25日新築許可 ・大正9年9月1日竣工	『神社明細帳・嶺南編』
釣姫神社	小浜市	西津	大正13年7月21日建設許可 ・大正13年10月28日竣工届出	〃
多由比神社	若狭町	田井	大正13年10月吉日	拝所新築篤志芳名の石碑
弥美神社	美浜町	宮代	大正15年2月27日□□	『神社明細帳・嶺南編』
静志神社	おおい町	父子	昭和2年3月29日新築許可 ・昭和10年12月29日竣工届出	〃
日吉社	美浜町	早瀬	昭和8年9月11日明細帳登載許可 ・□□□許可・□□□届出	〃
瀧倉神社	若狭町	三生野	昭和15年10月28日建設許可 ・昭和16年10月7日竣工届出	〃
常宮神社	敦賀市	常宮	昭和18年11月18日竣工	棟札
日枝神社	小浜市	竹長	□□年12月22日訂正許可	『神社明細帳・嶺南編』
西宮社	美浜町	中寺	□5年6月6日新築許可	〃
八幡神社	若狭町	黒田	□□□	〃
日吉神社	小浜市	北塩屋		〃
白石神社	若狭町	熊川		〃
熊野神社	若狭町	井ノ口		〃
波古神社	若狭町	堤		〃
木野神社	美浜町	木野		〃
常神社	美浜町	和田		〃
八幡神社	美浜町	麻生		〃
八幡社	美浜町	五十谷		〃
日枝神社	高浜町	山中		〃
黒駒神社	小浜市	飯盛	(新築)	〃
間見神社	若狭町	成願寺		由緒書

5. おわりに

以上、「拝所」の呼称を文書や棟札、修理工事報告書などの史料からみた結果、以下のことが指摘できる。

若狭地方以外において「拝所」の記述は、京都府の石清水八幡宮の昭和11年にみられるだけである。ただし、石清水八幡宮の拝所は、若狭地方の神社にみられる拝所と建築形式は似ているものの、楼門・廻廊に付くものである。また、京都府の伏見稲荷大社には、「礼拝所」と呼ばれる建物がある。これは呼称が異なるものの、建築形式は若狭地方の神社にみられる拝所と類似している。

若狭地方における「拝所」の呼称は、敦賀市の1例を含め61例確認できる。その中で、江戸時代の例は4例あり、宝永元年(1704)が最古の例である。その後、幕末まで断続的にみられるが、中でも、文化3年(1806)の記録にみられる美浜町日向の稲荷神社の拝所は、文献史料の記述と現存建物が一致する最も古い例である。

したがって、若狭地方における「拝所」の呼称は、少なくとも江戸中期頃には使われていたといえる。そして、一般的に用いられるのは『神社明細帳・嶺南編』や石碑に多くみられるようになる明治20年代後半以降であることを指摘できる。

また、「拝所」の呼称は、若狭地方以外ではほとんど報告されておらず、若狭地方の神社建築における特徴の一つといえる。

そして、拝所がつくられた理由は、祭礼時の神職や氏子たちの居場所の確保と雨除けや雪除けのためであると指摘できる。

【註】

- 1) 多米淑人, 吉田純一: 独立型拝所の建築形式の特徴 ―若狭地方の拝所の建築的研究― その1 ―, 日本建築学会計画系論文集, No. 645, pp. 2481-2487, 2009. 11
- 2) 『重要文化財石清水八幡宮社殿修理工事報告書』49頁引用
- 3) 同上 11頁参照
- 4) 同上 1-49頁参照
- 5) 註2 5頁掲載
- 6) 『京都御役所向大概覚書 下巻(清文堂史料叢書 第6巻)』44頁引用
- 7) 『重要文化財伏見稲荷大社本殿修理工事報告書』4頁掲載
- 8) 同上 7頁参照
- 9) 『酒井家編年史料稿本』83頁引用(但し、頁数は福井県文書館が附したものである)
- 10) 『若狭の工匠』77-78頁参照
- 11) 『宇波西神社文書 造営2』97頁引用(但し、頁数は福井県文書館が附したものである)
- 12) 『野木村誌』162頁引用
- 13) 同上 162-163頁引用
- 14) 若狭地方は三方郡、遠敷郡、大飯郡から成るため、敦賀郡を除外する。
- 15) 神社の中には、竣工や訂正許可など2つ以上の年代の記述があるものもあるが、その中でも最も古い年代を採用している。
- 16) 『影印本・福井県神明細帳(嶺南編)』390頁引用
- 17) 『鏡ノ関ノ記』6頁掲載
- 18) 同上 6頁引用

【参考文献】

- 1) 京都府教育庁文化財保護課編: 重要文化財石清水八幡宮社殿修理工事報告書, 京都府教育委員会, 1969年
- 2) 岩生成一監修: 京都御役所向大概覚書 下巻(清文堂史料叢書 第6巻), 清文堂, 1973年

- 3) 京都府教育庁文化財保護課編：重要文化財伏見稲荷大社本殿修理工事報告書，同，1969 年
- 4) 小浜市立図書館所蔵，福井県文書館写本収蔵：酒井家編年史料稿本
- 5) 市川定男，杉浦邦久：若狭の工匠，福井工業大学卒業論文，1976 年
- 6) 福井県文書館所蔵：宇波西神社文書 造営 2
- 7) 福井県遠敷郡野木村教育会編：野木村誌，同，1922 年
- 8) 山本編集室編：影印本・福井県神社明細帳（嶺南編），若狭路文化研究会・助けでんふれあい福井財団，2001 年
- 9) 重長昌平：鏡ノ関ノ記，同，2001 年

（平成 22 年 3 月 31 日受理）